

## 平成 30 年度 第 1 回 三条市特別職報酬等審議会 会議録（概要）

- 1 日 時 平成 31 年 1 月 21 日(月) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 36 分まで
- 2 場 所 三条市役所 三条庁舎 3 階 第 1 会議室
- 3 出席者等 委 員 落合福司会長、佐野千代里委員、西潟精一委員、  
佐藤洋一委員、渡辺定一委員、堀信孝委員、  
野崎文夫委員、佐藤春男委員、高橋夢乃委員、  
石川勝行委員
- 理 事 者 國定市長（諮問時及び答申時）
- 説 明 員 駒形総務部長、小林行政課長、渋谷課長補佐、  
藤塚係長、伊藤主事
- 報道機関 新潟日報、三條新聞社、越後ジャーナル社
- 傍 聴 者 なし

### 4 会議概要

- (1) 委員等紹介
- (2) 諮問 國定市長から落合会長に諮問文を手交
- (3) 議事

#### ア 諮問内容の審議

事 務 局：（「平成 30 年度三条市特別職報酬等審議会参考資料」に基づき説明）

西潟委員： 市の財政状況等について、平成 30 年度の見込みは出ているのか。  
出ていなければ、12 月末までで出ているのか。

事 務 局： 最新の数値があるのか確認して後ほど回答する。

落合会長： 今ほどの質問に対する回答は保留中だが、後で回答することによ  
いか。

全 委 員： 「異議なし」の声あり

落合会長： それでは、諮問内容について各委員から意見をいただきたい。

野崎委員： 先ほどの質問に対する回答はまだ出ていないが、前年度と大差は  
ないと思うので、それを前提に発言したい。昨年は 4 年連続引き上  
げるかどうかの議論の中で、前回も上げたらどうか、下げたらどう  
かという意見が出た。最終的には会長のまとめた結論で合意した。  
私は、県の指数と三条市の指数を比べても三条市の数値がやや高い  
という中、4 年連続で引上げしているので、今年度の引上げはいか  
がなものかと考えており、据置きが妥当であると思う。

佐藤(洋)委員： 同意見である。何かを要求しても「予算がない」という回答しか  
出てこないのが三条市の現実である。収入が増えないところで経費

を出すというのは難しいのではないか。これまでもいろいろな立場から商工会から「とにかく税収が増える方法を考えてくれ」と提案しているが、歳入が増えないなら、歳出も増やすことはできない。特別職だけ4年間で4パーセントも上がって、一般職が0.84パーセントしか上がっていないというのはバランスに欠ける。人事院勧告に沿っているのだろうが、今後人手不足の問題が出てくると思うし、むしろ若い優秀な職員をこれからいかに確保するかということにある程度重点を置きながらやっていった方がよいのではないか。

佐藤(春)委員： 1点確認したい。特別職と一般職の改定率について話があったが、特別職の場合はいわゆる定期昇給という考え方はなく、一般職は定期昇給がある。単純にその改定率だけを比較することは難しい。一般職については定期昇給以外の部分であるという考え方でよいか。

事務局： お見込みのとおり。改定率は、単純比較できるものではない。一般職では、若年層は定期昇給があるが、一定年齢以上の高齢層は昇給停止という仕組みになっている。あくまでも平均的な改定率ということで捉えてもらえればと思う。

堀委員： 議員の定数削減を考慮して、報酬を上げることで議員からそれに見合った活動をしてほしいと私は思っている。とは言いながらも、議員だけ上げるということにはバランス的にできないと思うので、据置きが妥当ではないか。

西潟委員： 企業では、普通は収入と支出を見て判断すると思う。確かに経常収支比率の硬直化が進んでいるものの、他の数値を見るとそこそこやっているのではないか。三条市の特別職の方々の仕事ぶりを見ても、地域のことをとてもよく考えていろいろなことをしていると思う。一番は「工場の祭典」、そしてそれをベースに、昨年9月に開催された「ジャパン・ハウスロンドン」の最初の企画展に燕三条地域が選ばれたことがある。その影響は今後、地域に還元されると思うし、その貢献度はすごいものがある。私としては、いろいろと考えて、引上率が1パーセントでいいかどうかは分からないが、引き上げの方向で検討してほしい。

佐野委員： 広報さんじょうの議長との対談を読んで、そこからライフステージに合った行政や三条地域の特性を生かした取組など、様々な施策が行われていて、「あれがそうだな」と目に見える形で成果が出ているので、引上げでもいいのかなと思うが、参考資料の中の財政指標に関する資料で、経常収支比率については75パーセント以下が適当だという中で、平成26年度からずっと90パーセントを下ってい

ないので、据置きでもいいのかなというどっちつかずのところもある。4年間上げてきたから据置き、という意見ではなく、財政指標をよく見て決めた方がいい。

佐藤(春)委員： 財政指標を見ると確かに厳しい状況ではあると思うが、私は1パーセントの引上げを提案したい。一つは、議員定数26人を22人に削減したことで、議員に充てる原資の総枠は改善されたという状況であり、魅力ある行政というか、魅力ある市議会は、報酬だけではないかと思うが、ここは報酬審議の場なので意見を述べたい。今回初めて地方議員の活動等に係る資料を作成していただいたが、地方自治法に抵触しないのであれば、例えば、65歳以上の議員の方は据置きだとか差をつけてもいいのではないかと。もちろん議員の職務は、60歳、65歳といった年齢で議員の職責が軽減されるものではないし、経験値が非常に重要であることは分かるけれども、とりわけ若い皆さんの議員のなり手がいないという声がよく出るし、議員の方々からも聞こえる。可能であれば、減額ということではないが、据え置くということもいかがなものかということで、年齢別の報酬も問題提起してはどうか。これはもちろん市当局のいろいろな職員の負荷も増えるので一概には言えないが、例えば、議員自ら議会の通年開催、あるいは夜間の開催など、開かれた議会を目指して改革していただければと考えている。

一般的に、議員の約600万円の年収は、一般市民からすると低い額ではないが、今日出された資料から分かるように単純比較ができないが職責や責務から考えると、私は、例えばこの5か年くらいの中で、三条市の規模であれば議員報酬は月額40万円程度にして、年額650万円程度にしていくべきとも考えていた。しかし、三条市の財政状況は決して楽ではないことも理解できる。議員報酬については1パーセントの引上げを基本としつつ、65歳以上は据置きという考え方もあるという問題提起と理解してほしい。

事務局： 冒頭に西潟委員から質問のあった財政の状況等については、平成30年度当初予算時における市税の見込みは約5千万円程度の増であり、率としては0.4パーセント増である。しかし、最新の数値や今後の見込みについては、不確定な要素もあるので見込んでいない。ただ、財政指標については、経常収支比率は平成29年度が95.9パーセント、平成30年度決算見込みが96.1パーセントで、0.2ポイント増加し、実質公債費比率は、平成29年度が15.0パーセント、平成30年度決算見込みが15.3パーセントで、0.3パーセント増加

する。財政調整基金残高は、平成 29 年度が 67 億 4,894 万 5 千円、当初予算時において平成 30 年度決算が 37 億 8 千万円で、かなり減る見込みである。

落合会長： 財政状況を見ると相当良くない状況であり、しかも少しずつではあるが年々悪化が進んでいる。燕市のように特殊要因がない限り、おそらくほとんどの地方が悪化しているし、この先も悪化するだろうという見込みが一般的である。三条市も例外ではない。

石川委員： 特別職の仕事内容や責務や貢献から見ると、期待感を含めて上げてもらいたいと思うが、他市と比較しても遜色ないし、財政状態は税収がなかなか伸びていないし、非常に硬直化している現状からみると、過去 4 年間 1 パーセントずつ引き上げて 4 パーセント上がっているの、今年 1 年間だけでも据置きが妥当と考える。

高橋委員： 先に質問がある。本日追加資料の地方議会議員の法的位置付け等についての議案等の審議状況で平成 30 年度の数字が少ないのはまだ年度途中だからか。

事務局： そのとおり。

高橋委員： 私の意見としては、市長、副市長、教育長は据置き、議長、副議長、議員は 1 パーセント程度の引上げが妥当と考える。議員の数が減ったという話は他の委員からも出たが、議員が減るということは、単純に考えて議員の負担が大きくなっていると見るべき。また、単純に比較できないが、他市と比較すると議員報酬に関してはそれほど高くないということで、議会が活発になると市の運営にも効果が出てくる部分もあると考え、今後の期待感も込めて、議長、副議長、議員は引上げ、その他は据置きが妥当であると考えます。

渡辺委員： 経営者としての立場で発言すれば、今年是有給休暇の取得義務化等に見られるような働き方改革が 5 月から始まり、新元号の導入でかなりの費用負担が見込まれる。その中で社員のベースアップをできない状態の中で、経営者だけ上げて社員は上げないということではできない。また、10 月には消費税が 10 パーセントになるし、こういった状況で引き上げるのはいかがかと思っている。

西潟委員： 先ほどの見込みでは、今年度の経常収支比率は 96.1 パーセントで限りなく 100 パーセントに近くなるが、もともとこの数値はどうか。75 パーセント以下の自治体はあるのか。

事務局： 御指摘の経常収支比率は、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標と捉えられている。この内訳としては、人件費、扶助費、公債費のように、毎年度経常的に支出される経費に充たさ

れた一般財源の額が、地方税・普通地方交付税等を中心とする毎年度恒常的に収入される一般財源などの合計額に占める割合を示すものである。この指標は今までの議論の中でもあったが、数値が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを示す。

新潟県内の20市平均は92.5パーセントで、75パーセント未満はない。三条市の平成30年度決算見込みは96.1パーセントとなっており、3.6ポイントほど数字が高くなっている。この数字を県内と比較すると高いということではあるが、将来への投資を見越した中で数字が上がっているもの。三条市は、ものづくり大学など、これから新たに投資する事業費をシミュレーションしており、想定内と見ている。単純な悪化ではない。数字だけを見て財政的に危険だということではないので、御理解いただきたい。

落合会長： 一委員としての意見を述べる。昨年度は3年連続で引き上げていたので、ここで一度据置きにすべきと個人意見を述べた。しかし、他の委員からは1パーセントの引上げが妥当であるという意見が多かったので、それを答申とした。今年は、財政状況が厳しいというのはどなたも御理解いただけると思うが、やはり大事にしなければいけないのが市民感情である。市長等は4年連続で4パーセント上がっている。引上率の問題もあるが、一般の職員に関しては4年で0.84パーセントしか引き上げていない。今の状況で年1パーセント引き上げという数字は低いわけではない。賃金の上昇率等を見ても1パーセント未満である。数日前の新聞で出ていたが、0.6パーセントくらいという報道もある。特別職は4年連続で引き上げているので、ここで一回据置いてもいいのではないかと思う。数字も4年間で4パーセントということで、一般職の0.84パーセント引上げに比べればかなり高い引上げ率であり、財政状況も厳しいので据置きでよいのではないか。

会長として、各委員からの意見を整理すると、据置きが私を含めて7人、引上げが3人であった。引上げの方の意見では、2人から明確に議員については引き上げた方がいいのではないかと認識している。

今までに市長は据置きで議員は引上げ、といった区別をしたことはない。できないことはないが、ともに特別職であり区別をすることはどうかは慎重に考えるべきであり、仮にどちらかが据置きでどちらかが引き上げるということであれば、通常であれば区別するだけの理由が必要となる。明確な理由付けは難しいだろうと考えている。

やはり、最後は委員の意見を民主的にまとめなければならない。

そこで、今回については一律据置きということで審議会の総意としてまとめたいが、了解いただけるか。

全 委 員： 「異議なし」の声あり

落合会長： 議員については、議員定数の削減などいろいろ事情はあるが引上げが望ましいといった文言を付けられるか。

事 務 局： 本審議会の答申結果は重い。基本的には本審議会の答申を尊重する形で報酬を決定することとなる。要望という形ではなく、できれば本審議会において結論的なものを出していただきたい。そうでないとまた諮問しなければならなくなり、同じことの繰り返しになる。今日の内容について議事録として残していく。

落合会長： それでは、事務局において答申案を作成する間、休憩とする。

【休憩 14：40】

【再開 15：24】（答申文案配付）

落合会長： 答申文案に対し、修正意見や質問、要望等はどうか。特になければ本文案でよろしいか。

事 務 局： 本文中、「財政指数」と表記したが「財政指標」とさせていただきたい。

落合会長： 当該部分を修正したものを答申文案として決定してよろしいか。

全 委 員： 「異議なし」の声あり

落合会長： それでは、そのように決定させていただく。

【市長入室】

落合会長：（答申文朗読）

三条市特別職の報酬額等について

本日、当審議会に諮問された議会議員の議員報酬額並びに市長、副市長及び教育長の給料額について、ものづくりのまちを積極的にアピールし、シティセールスの向上が認められること、また、各種改革にも取り組んでいるなど特別職の職務職責を評価する一方で、経常収支比率、実質公債費比率及び財政調整基金残高等の財政指標や今後の社会情勢等を慎重に見ていく必要があるなど、多くの意見が出されたところである。

こうしたことを慎重に審議した結果、次のとおり答申する。

- 1 議会議員の議員報酬額 据置き
- 2 市長、副市長及び教育長の給料額 据置き

（答申書を読み上げ後、國定市長に手交）

國定市長： いただいた答申をしっかり受け止めて、予算計上等の対応をさせ

ていただきたい。

【市長退室】

落合会長：本会は、以上をもって閉会する。

【会議終了 15:36】